



特集 京都ライトハウス点字図書館を訪ねて

探検隊は行く
シリーズVI

京都ライトハウスとけやきの交流から考えたこと



◆誰もが使いやすい図書館

私たち図書館友の会けやきは、「京都市の図書館が全ての市民が利用しやすい図書館である」ことを願って活動しています。赤ちゃんから高齢者まで、もちろん障害がある方にも。

99年に現在地に新築移転した左京図書館でも、車椅子での使い勝手を検証したり、対面朗読室の活用など障害のある方のための図書館サービスの改善と周知を要望してきました。その結果、障害のある方のための独自の利用案内もつくられました(00年2月発行けやき2号参照)。その内容は、02年10月にできた京都市全図書館共通の利用案内にも引き継がれています。

◆考えるきっかけ

ところで03年7月初旬、けやき会員YとTさんが京都ライトハウスを訪ねました。Tさんは京都ライトハウスの音訳ボランティア、ニュースレターけやきのテープ録音も担当しています。もともと京都市北区にある京都ライトハウスは建物を改築中で、現在は2人の地元の左京区高野に仮住まいしています。

そこで、職員さんと視覚に障害がある方への図書サービスについて話しているうち、左京図書館の対面朗読室のことも話題になりました。すると驚くことに、障害がある方の主たる情報源である「障害者福祉のしおり」¹の「社会参加-(7)図書・ビデオ等の貸出制度-対面朗読」の欄に、左京をはじめ岩倉・下京・久世ふれあいセンターの各図書館に設置されている対面朗読室についての記載がないことがわかりました。02年

4月より始まった醍醐中央図書館の視聴覚資料を京都ライトハウスの点字図書館を通じて利用できる“音の文庫事業”の記載もありませんでした。

これではせっかくの設備や制度が活用されません。利用を願う人たちにきちんと届くかたちで広報してほしいものです。現に記載もれの4図書館では昨年度は対面朗読の利用は一度もありませんでした。早速、中央図書館に連絡し、善処をお願いしました。「障害者福祉のしおり」最新版には記載されています。

このことをきっかけに図書館友の会けやきと京都ライトハウスとの交流が始まりました。ライトハウスで催された映画上映会に参加。この映画にはボランティアが生で場面ごとに情景を説明する副音声が付いていました。さらに、8月4日会員9名が視覚に障害のある方の専門図書館である京都ライトハウス点字図書館を見学しました(次頁に見学記)。

◆地域の図書館にできることは?

京都市では、まだまだ「視覚に障害のある方への図書サービスはライトハウスで」という傾向が強いようです。しかし、ライトハウスは京都府下にただ一つ、たまたま京都市内にあるとはいえ、訪ねるのは大変です。郵送サービスもありますが、新刊図書や新聞・雑誌などの対面朗読をはじめ実際に足を運ぶことで利用可能なサービスもたくさんあるのです。

障害のある方の身近にある公共図書館でこれらのサービスが充実したら、どれほど便利でしょう。視覚に障害のある方にとって使い勝手のいい図書館は、高齢者をはじめすべての図書館利用者にとっても使いやすいものであるはずです。(永井)

¹京都市保健福祉局福祉部障害福祉課発行

見学記 京都ライトハウス点字図書館を訪ねて

8月4日、けやき会員9名が京都ライトハウス点字図書館を訪ねました。

福祉法人京都ライトハウスは「京都に盲学生図書館を」という願いを受け、1961年に創立。点字図書館、点字出版部に加え、中途視覚障害者に対する生活訓練や、視覚障害乳幼児のための療育に取り組んでいます。盲養護老人ホームも併設。

北区千本北大路の建物が改築中のため、2004年3月迄の予定で、左京図書館からも近い高野交差点南西（旧左京高齢者福祉センター）に開設されています。

〈所在地〉左京区高野東開町1-2 〈TEL〉075-707-5880

◇点字図書館とは◇

点字図書館という名前から点字本がずらっと並んでいる図書館をイメージして訪問したのですが、図書は点字本だけではないのです。その種類の多さにまず驚きました。図書の種類は点字図書、録音図書、フロッピー資料、CD・ディージー資料¹とあり、利用者の好みに応じ、選べるようになっています。図書目録も、点字版、墨字版²、フロッピー版など各種用意されています。

貸出は直接来館だけでなく、電話・ファックス・メールでも受け付け、郵送されます。会員には新刊案内と本の情報が毎月、テープで送られます。その際、京都府民の会員には点字板またはテープ版の京都府広報もあわせて送付されます。また、全国の視覚障害者情報提供施設やボランティア団体・公共図書館・大学図書館などが加盟する視覚障害者ネットワークによって、他館の資料の利用も容易になりました。

レファレンス・サービスはもちろん、その他のサービスも充実しています。持ち込み資料の読み書きサービス・対面朗読、プライベート点訳・音訳、「音の文庫」貸出サービス（京都市中央図書館の委託事業）、国立国会図書館録音図書制作・貸出サービスの受付、と利用者の本や読書の様々なニーズに柔軟に対応しようとしているのが伝わってきます。

館長のお話では、今後さらに弱視者のニーズをつかみ、サービスを拡充していくことも検討されているとか。今、弱視者向けには拡大読書器によるサービスがあります。点字図書館利用者には、事故や病気での中途障害の方が多いとのこと。私自身も、この図書館の利用者になる可能性があるのです。館長をはじめ、図

書館員が利用者の持てる力に応じた多様な情報提供を常に心がけておられる姿勢に感動しました。

最近インターネットから点字・音声の情報が入手しやすくなり、多くの方が、インターネットを利用して、公共図書館から直接図書情報を得ておられます。（残念ながら、京都市図書館の情報は、音声に変換する仕組みにまだ対応していません。）点訳・音訳の機械化も進み、点訳・音訳も以前より簡単に出来るようになってきているようです。障害者の得られる情報がわずかでも増えてきているのはすばらしいことです。しかし、一方で、コンピュータを扱える世代とそうでない世代の間で情報量の差が出ていると、館長は懸念されています。その差を超えるためにも点字という視覚に障害を持つ方の共通の文字は大切にしていきたいとおっしゃる館長の思いは心に残りました。

一般の図書館でも資料が電子図書として整理されています。それらの図書情報を含め、障害を持つ方にも、私たちが利用する手軽さで種々の情報が届くようになればいいのにと願います。

この点字図書館の利用者サービス、資料保存に対する姿勢は、「すべての人に情報を、すべての人に利用しやすい図書館を」と活動している私たち「けやき」の思いと通じるものがあると思えました。ただ、これらのサービスが、図書館員だけではなく、点訳・音訳発送業務等多岐にわたり、ボランティアの方々の無償の好意に支えられていると聞き、私たちが利用している図書館にはないご苦労が思いやられました。（何とかならないのかしら…）（吉政）

¹ DAISY(デジタルアクセシブル情報システム)によって作成された国際標準のマルチメディア対応資料

² 活字版。点字に対して、普通に書かれた文字を〔墨字〕という

◇読書と点字と図書館と◇

先日、ライトハウスで職員の方から直接お話を伺う機会に恵まれ、今の自分の生活を見直すことの大切さを教えられたように思いました。また、視覚に障害を持つ人も、そのことによる不便、不利益をできるだけ受けなくて生活できる社会にするのは大変なことだ、とも思いました。

ある家の書棚には、その家族の趣味、思想傾向などの様々な精神生活が詰まっています。それを披露することで、関係を深めていける相手に巡り会えることもあるでしょう。が、人の目に曝したくない部分もある



はずです。極端に言えば、家族の間でさえも踏み込んでほしくない部分があってもおかしくはないと思います。そういう部分(気持ち)を私たちは読書をしたり、音楽を聴いたりすることで満足させます。何の不自由もなく物を見ることができれば、自分で本を選びCDなどを手に入れ、精神

生活を充実させていけます。しかし、視覚に障害を持つ人は一人で対処することが不可能だ、ということです。朗読してもらえたとしても、朗読者の解釈が全くゼロにはならないでしょう。仮にその本が点字本として存在していたとしても、必ず誰かが介在する、そういうストレスは大きなものでしょう。私はそれに耐えられないだろうと思います。

また、パソコンによって文字から点字にプリントア

大型活字本が左京図書館にある

のをご存知ですか？

大活字本は、書架に一ヶ所にまとまっています。検索機では目的の図書を検索して、拡大版があるかどうか調べることになります。検索機で大活字本がリストアップできれば便利だなと思います。私の目当ての図書の拡大版は左京図書館にはなく、中央図書館にリクエストしました。本のサイズは少し大きくなりますが、老眼のすすんできた私には、文字の大きいのはうれしい！

細かい文字を読みづらく思われている方、一度利用されてはいかがでしょう。

ウトできるようにもなっていることを知り、以前とは比較にならない程便利になったと思いました。が、その反面、点字を読めない人も増えてきているという事実は考えさせられました。小説などを読んでいる時、私たちの感情の流れは一定速度ではありません。感動した箇所は繰り返して読むこともありますし、前に戻って状況を確認したり、登場人物の心境の変化を感じたりもします。それは、視覚に障害の有る無しに関係なく、点字も含めた文字からしかできません。やはり、点字教育は大切ではないかと思います。

このライトハウスの様々な資料がもっと活かされるよう、私たちで関わることがあるかどうか、考えてみたいと思います。(増井)

◇心に残ったこと◇

10年くらい前に、市の朗読ボランティアの講習を受け、ライトハウスには半年くらい通いました。修了書まではもらったのですが、そこでストップとなり、今回の見学であの頃の事を思い出しました。

今回、館長さんにお会いし、本当に障害者の側に立って、日々努力されている姿に、ライトハウスの利用者には強い力だろうと思いました。

「視覚障害者とともに」というパンフレットを頂きましたが、そこに掲載の点字表を初めて見て、6つの点で文字を読みとる作業は覚えるまでだいぶ頑張らなければならないことですが、障害者の方が一字でも読み書きをしたい気持ちで、マスターされていることに感動します。ちなみに日本の点字の規格が、世界で一番小さいとのこと、これから点字を覚えていかれる方のために改革も、とも思います。できれば私も勉強してみたいのですが、指がなかなか追いつかないのですが…。

書架の点字本や大型活字本、また、朗読室も見学させていただきました。なかなか運営も大変だろうと思いますが、ライトハウスは大きな灯台で、身近な小さな灯台として、障害者の近所でプライバシーを損なわないようなお手伝い、例えば手紙や新聞を読んであげるなどのことができるグループがあってもよいなあと思います。

ライトハウスの職員さんよろしくお願ひします。何かできることなら、お手伝いさせて下さい。

(松本)

左京図書館との出会い—期待・願い

私がこの世に生を受けてから50と何年かがたちました。その間に8回の引越しを経験し、その8回目の引越しでやってきたのが、ここ京都市左京区です。子供の頃や学生の時には、気にも留めなかった図書館ですが、大人になってからは、自分の住む街にどのような図書館があるかということも大きな関心事になっています。特に今回は学生の街、文教都市京都ということで、期待を抱えておりました。

実際に利用してみて、これから暮らしていく街について知りたいと思った時、京都に関するコーナーが設けてあったので、とても助かりました。毎日眺めている山をハイキングしてみたいと思った時や、街の歴史などに関心を持った時も、そのコーナーでそれなりの手掛りを与えてくれます。今まで住んできた街の図書館で、郷土に関しての大人向けの本がこれだけまとめてあったところは無かったように思います。さらに、現代作家の小説やエッセイなどを読みみたい時にも、その欲求は満足させられています。目的がはっきりしないまま、何か読んでみたいと思い、脚を運ぶ場合は、左京図書館のように開架で揃っているというのは便利です。欲を言えばもう少し古い作家の作品も揃っていると、より一層利用価値が大きくなるのではないかと思います。

京都は大きな都市であるにもかかわらず、豊かな自然に恵まれた街だと思えます。今まであまり

◇左京図書館の活動◇

見たことのない生き物や植物に出会った時、それについて知りたいという好奇心が生まれました。そして図書館へ手掛りを求めて出掛けましたが、図鑑、百科事典よりももう少し詳しい説明のある書籍が少なく、中途半端な気持ちのまま家に帰ったこともあります。

自分以外の人の生き方を疑似体験したり、人の考え方を知ることによって感動し、心に潤いを得ることは大切だと思えます。それと同時に、身近な生活の中で生まれた好奇心を満たしていくことも、人生の喜びの一つでしょう。そしてそれを満足させてくれるものに、自然科学系、社会科学系の本があると思えます。学生として学校図書館を利用できる間は様々な本に触れる機会はあっても、卒業してしまうと頼りになるのは公共図書館です。そのような意味でも、少々専門的な書籍も増えていってくれることを願っています。

1月には左京図書館で山極寿一さんの公演と絵本の原画展を楽しむことができました。本を通して多くの人の考え方などに触れる機会が昔と比べて増えてきてはいますが、やはり直接話が聴けるというのは新鮮な発見があります。これからも、様々な分野の方の話が聴けることを願っています。また、映画、ビデオの上映など、視聴覚サービスも充実してくれば、より幅広い文化活動ができるのではないのでしょうか。

ともあれ、これからも身近な文化施設としての図書館に期待をし、大いに利用していきたいと思えます。(会員・増井、高野)

けやきの活動 6月～10月 ('03)

- 6/9 定期総会
学習会
(市民とともに作る図書館をめざして)
講師-福山恭子さん
- 6/13 ニュースレターNo.13印刷・発送
- 6/19 深草図書館見学(永井)
- 6/28 図書館お楽しみ会
図書館絵本コーナーの飾りをつくる会
- 7/26 図書館おたのしみ会
- 8/4 京都ライトハウス点字図書館見学
図書館“万華鏡を作ろう”
- 8/23 図書館おたのしみ会
- 9/10 図書館おたのしみ会
- 9/27 図書館おたのしみ会
絵本コーナーの飾りをつくる会
- 10/3 ニュースレターNo.14印刷・発送

※・図書館主催行事は、協力
毎月第一月曜日に
事務局会議
図書館とのミーティング



TOPICS

◇左京図書館の飾りを作る会◇

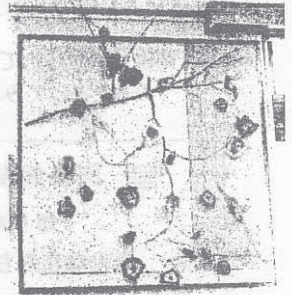
図書館の飾りを作る会は、これまで三階の大会議室で開いていましたが、今年度から絵本コーナーで行なっています。来館者の方たちに、みんなで図書館を飾る作品を作っているところを目にしてい、どんどん飛び入りで参加していただけたらと、会場を移しました。最初はたまたま来館した時に見かけて参加し、以後毎回楽しみにして参加している子もいます。

夢中で手を動かしているうちに、または子どもたちが個性あふれる素敵な作品を仕上げた時など、思わず歓声を上げ、「しまった！静かに読書している利用者さんごめんなさい」と反省するのですが、参加者一人ひとりがみんなで一緒に作った作品で館内を飾りたいと、張り切って製作しています。

12月・来年3月にも飾りを作ります。子どもだけでなく、大人の参加者も大歓迎です。ぜひ、御参加下さい。
(永井)



6月の会の作品



9月の会の作品



9月の会の製作風景

けやきの本棚 14

わたしの
おすすめの本

ゲーム脳の恐怖

森昭雄著

日本放送出版協会 02年

テレビゲームによる視力低下、神経の興奮、ゲームの人物との同化など、弊害を聞くことはあったが、「ゲーム脳」とは何？ ゲームをしている時の脳波を測定してわかったことがある。脳の神経回路がほぼできる十歳までを、ゲーム漬けで過ごす、人間らしい理性をコントロールする前頭前野が育たない。それは、痴呆者の状態に似ているという。まさしく「恐怖」の一冊。
(会員NAO・一乗寺)

じいへのそうべえ



たじまゆきひこ作
童心社 78年

かるわさしのそうべえがわたりのとちゅうでしぬところが、びつくりしておもしろい。そのあとじいのおに「フオークみたいなんできよりまんのや」というところはわらける。

「日本語」という言葉

リトルセレクトション

あなたのための小さな物語15

赤木かん子編 ポプラ社 02年

難しそうだなあと目次を見るとそこには「ウナギ文」と「元祖ゴキブリラーメン」エエツ？日本語の本だよ、これって。読んでみたくなるじゃないですか。おもしろくて、読みやすく、わかりやすい、日本語が益々好きになる一冊です。切れ味のいい短編は、本を読み慣れない人でも読み切ることが出来ます。しかも、一生忘れられないほど強く、その人の魂をゆさぶる力も持っているものです。読んでいただきたいシリーズです。
(司書Yさん・左京図書館)

河合雅雄の たまたまうっかり動物園

草山万兎著 高島純絵

小学館 95年

子供にせがまれて行く動物園では、動物たちの境遇に、いつも何とも言えない辛さで胸を痛めておりました。ところがこの本の題名の様な、動物達のたまたま偶然にうつかりした拍子に連れて来られたいきさつを読むうちに、「なあんだ、そんなことも本当にあるかも知れないなあ。」と大変気持ちが悪くなりました。
(Mさん・高野)

